

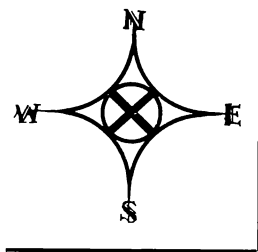


Title	第10回 日本歯科医学会総会の展望
Author(s)	田守, 悦男
Citation	大阪公衆衛生. 1963, 12, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84652
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

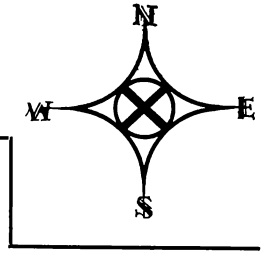


第 10 回

日本歯科医学会総会の展望

去る10月26日から4日間にわたって、第10回日本歯科医学会総会が大阪市で開催された。第5回総会が昭和28年に開かれてから10年ぶりのことであって、準備期間1年2ヶ月という短時間であったことと、春のマンモス医学会の後をうけて、秋の開催という悪条件にも拘らず、非常に意欲的な企画とその執行ぶりは、過去の本学会の在り方に対して、時代的要求をそのままぶちつけると言った全くファイト溢れる計画の実現に、大阪歯科大学、大阪大学歯学部、大阪府歯科医師会の3者の緊密な提携によって、学者と開業医の混然とした協力一致の努力が傾けられた。

第1日の大会場フェスティバルホールを文字通り埋めつくしての開会式と特別講演については、参会の諸外人に「ワンダフル」を連発させ、学会開会式に新規軸を打ち出し、第2日の総会シンポジウムという新形式によって、最もポピュラーな問題である「歯牙う蝕症」を狙上に、各分科の専



問学者が真正面から取組んで論じ合う場を展開し、この両日に亘って、ITVによる館内TV受像によって館外に溢れた会員に便宜が与えられ、つづいて、第3、第4日の8分科会の各総会というプログラムが、未曾有という表現がそのまま当てはまる大盛況裡に7000名余の参加者を得て、無事終了し、この学会の目標とされていた「学会は日本歯科医師会々員のもの」という、そのシンプルが完全に実現されたといえるであろう。

(大阪府歯科医師会常務理事田守悦男)